

令和7年度 学校評価報告書【国立市国立第三中学校】※学校運営協議会の承認を経て、下記の通り教育活動を行う。

学校教育目標	◎ 自ら考え正しい判断のできる人 ○ 強い意志をもって実行できる人 ◎ 思いやりの心をもって助け合う人 ○ 心身を鍛える人	重点目標	「自ら考え正しい判断のできる人」、「思いやりの心をもって助け合う人」
--------	--	------	------------------------------------

学校教育目標	中期目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校運営協議会委員評価
					中間評価	最終評価			
できる考え正しい判断の	深く考える生徒の育成	主体的に学び、深く考える機会を意図的に設定し実施していく。	・三中授業スタンダードの実践、「主体的・対話的で深い学び」による授業の充実、考えを深めるための課題設定と発問の工夫 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実 ・生徒による授業アンケートの実施 ・教員相互の授業観察	・全教員で三中授業スタンダードを実践し、授業力向上を図る。 ・毎時間、「本時のねらい」を明示、授業の最後に「本時の振り返り」を確実にすることができたか。 ・生徒が考えを深めることができる学習課題の設定と発問の工夫を行っているか。 ・令和5・6年度の研究成果をさらに発展させる。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、深く考える生徒を育成することができたか。 ・教科（国・理・英・社・道徳4回）及びSDG s 学習に特化した校内研修会を年9回実施（大学教授、JOCA等を招聘）することができたか。 ・生徒による授業アンケートの数値を向上させることができたか。 ・教員相互の授業観察を年3回行うことができたか。	B	A	・年度当初に全教員で改めて「三中授業スタンダード」を確認し、日々の授業での実践を通して授業力の向上を図っている。 ・令和5・6年度の研究成果を生かし、「個別最適な学び」や「協働的な学び」を取り入れた授業づくりに継続して取り組んでいる。 ・校内研修では、1学期に国語・道徳の全体研修・研究授業を計3回、2学期に理科・英語・社会・道徳（2回）の研究授業とSDG s 全体研修を計6回、合計9回計画通りに実施した。研修後には校内研だよりを発行した。 ・生徒による授業アンケートは、今年度から東京都が配布する「学びに向かう力等に関する意識調査」を活用し、本校の実態に合わせて質問項目を一部修正して年に2回（7月・12月）実施した。長期休業中に集計・分析・考察を行い、職員会議で全教員で共有した。 ・年3回の授業観察・相互参観は予定通り終了した。	・三中授業スタンダードの課題としては、「ねらいの設定」と「振り返り」が挙げられる。特に「ねらいの設定」については、来年度も重点的に研究する。 ・今後も「個別最適な学び」や「協働的な学び」を効果的に取り入れた授業の実践を継続する。 ・年9回予定していた校内研修会はすべて予定通り実施できた。成果や課題、講師からの助言をまとめた「校内研だより」は9号まで作成し、全教員で共有して授業力向上につなげている。 ・生徒による授業アンケート結果から、2点（ねらいの明確化、振り返りについて）を2・3学期の重点項目とし、研究を進めた。今後、研究の成果と課題を分析する。 ・年3回の授業観察・相互参観は、今後の授業改善に役立てる。	・時間をかけた研修や研究の成果が学力テストの成績アップに出ていると評価できる。市内の公立学校のモデル校となるよう期待している。 ・生徒一人一人の良い点や可能性を生かし、異なる考え方が組み合わせたり、よりよい学びを生み出すことが大切になるが、コミュニケーションの差、役割分担の不均衡など注意が必要になるため、明確な目標共有がしっかりとできていると良いと思う。 ・本時のねらいを毎時間示しながら、また生徒に伝わっているのかを確認しながら学習に取り組んでいることが分かった。先生方も他の先生の授業を観察しながら学び続けていることに感銘を受けた。 ・子ども一人一人に対応した関わりや授業に対しての充実がしっかり図られており、先生方の研究熱心な指導が感じられた。分析・改善策がとられているため、向上につながっている。
			・各教科で身に付けた力を生かす問題解決的な学習活動 ・ICT機器の効果的な活用 ・持続可能な社会の創り手となる生徒の育成を目指すため、SDG s の校内研修会を実施	・教科等横断的な取組や問題解決的な学習を行うことができたか。 ・一人一台タブレット端末を効果的に活用することができたか。 ・「SDGs 三中プログラム」の学習を通じ、持続可能な社会づくりに向けて考えることができたか。	B	B	・各教科で教科横断的な取組や問題解決型学習を行っている。 ・タブレット端末は日常的に活用している。国立市では11月から生成AI（Gemini）を導入した。技術の授業等で生徒に説明し、各授業で効果的に活用している。 ・8月にSDG s 教員向けの研修会を実施し、講師から世界の現状や、世界と日本との比較などをご講義いただき、SDG s についての理解を深めた。	・教科等横断的な取組や問題解決型学習を継続して行う。 ・タブレット端末については、調べ学習や意見整理、資料作成などにおいて、今後も効果的に活用していく。また、11月から導入した生成AIは、国立市のガイドラインに基づき、今後も授業等で活用していく。 ・SDG s 三中プログラムの学習を全学年において進めた。今後も、研修での学びを生徒に還元していく。	・「SDG s 三中プログラム」は8月の研修会の成果が3月の発表会につながる期待している。各自が自分の生活に結び付けて実践できるようにすると社会の担い手として期待できる。 ・生成AIが今後活発に使用されていく時代なので、正しく判断のできる人をしっかり育ててほしいと思う。
			・習熟度別授業（数学） ・少人数授業（英語） ・補充教室、質問教室の実施 ・スマイルスタッフ、特別支援教室「かがやき」との連携	・効果的な習熟度別授業（数学）、少人数授業（英語）を実施することができたか。 ・補充・質問教室を実施することができたか。 ・スマイルスタッフ、かがやき教員等との連携による個別指導を充実することができたか。	B	A	・数学は習熟度別授業、英語は少人数授業でスピーキング力の向上を図っている。 ・今年度も国立高校生・卒業生に協力を依頼し補充教室を実施した。質問教室も全学年において実施した（学年閉鎖期間除く）。 ・スマイルスタッフ、かがやき教員等との連携も密に行い、個別指導を充実させている。	・数学は習熟度や生徒の実態に応じて授業内容を精選し効果的に展開している。 ・英語はスピーキングテストを意識し、少人数授業で表現力の向上を図っていく。 ・引き続き、質問教室と自習室を効果的に実施する。 ・引き続き、スマイルスタッフ、かがやき教員等との連携を密にし生徒の成長を支えていく。定期考査において、代筆受験を実施した。	・「誰一人取り残さない」世界で起こっている様々な問題を自分事として捉えることが大切になり、社会問題と自分がどのように行動して生きていくべきか考えるきっかけになると良いと思う。 ・生徒の実態に応じた学習支援や取組が学ぶ力を育てていると感じた。 ・学力調査の結果に表れていると評価できる。
・強い意志をもって実行できる人 ・思いやりの心をもって助け合う人	いじめ・不登校傾向の早期発見と早期対応	・校内いじめ防止対策委員会を毎月開催する等、いじめ及び不登校未然防止と迅速な対応 ・生徒によるいじめ防止活動（スクール・パディの活動） ・校内別室支援室、子どもと家庭の支援員、スクールソーシャルワーカーとの連携 ・学校生活満足度（QU）調査を5月と10月に実施、これを踏まえた校内研修会を6月と11月に実施 ・QU結果やグループエンカウンターを活用 ・人権教育だよりの活用	・校内いじめ防止対策委員会を毎月開催することができたか。 ・いじめ重大事態を出さない。 ・生徒一人一人のニーズに応じた多様な学びの場を提案することで不登校ゼロを目指す。 ・いじめ・からかいアンケート及び学校生活満足度（QU）調査、日常の生徒の言動から、いじめ認知をすることができたか。 ・深刻ないじめがなくなったか。 ・スクール・パディの活動を活性化させ、生徒の自己指導能力を高める。 ・SNS家庭ルールを、ほぼ100%設定することができたか。SNSフィルタリングを、ほぼ100%設定することができたか。 ・校内別室支援室、子どもと家庭の支援員、スクールソーシャルワーカーと連携することができたか。 ・QU結果やグループエンカウンターを活用し、よりよい学級・人間関係を構築することができたか。 ・人権教育だよりを十分に活用することができたか。	B	B	・校内いじめ対策委員会は毎月開催し、情報共有や現状確認、改善策の検討を行った。QU調査結果も参考にしている。 ・生徒間トラブル・いじめには早期対応を徹底し、「いじめ重大事態」はゼロを維持している。 ・不登校傾向の生徒には個別のニーズに応じた多様な学びを提案している。国立市のガイドラインを活用し、2月末で不登校は16名である。 ・いじめ・からかいアンケートを11月に実施した。11月時点で、本人・周囲などの訴えから軽微ないじめ14件を認知している。いずれも対応済または対応中である。 ・SNSフィルタリングの設定については、8月時点で92.6%であった。SNS家庭ルール率は96.7%であった。 ・校内別室支援室、子どもと家庭の支援員、スクールソーシャルワーカーと連携し、迅速な対応・支援ができていく。 ・人間関係づくりや他者理解を深めるため、8月に教員向けグループエンカウンター研修を実施し、全学級で活用した。「人権教育だよりの活用」では「いじめ」や「いじめ」や「いじめ」等をテーマに全校で共有し、3月号まで毎月発行した。	・引き続き、生徒間トラブルの未然防止・早期発見・早期解決に努める。 ・いじめやSNSトラブルについては、今後も人権だよりの活用しながら、生徒一人ひとりに深く考えさせる。 ・スクールパディの活動を活性化させ、自己指導力の育成を図る。 ・不登校傾向の生徒・保護者には、多様な学びの提案を継続しながら丁寧に対応する。 ・軽微ないじめも見逃さず、今後も丁寧に対応をする。 ・SNSフィルタリング設定・家庭ルール100%を目指す。保護者や生徒への発信を粘り強く続けていく。 ・引き続き、校内別室支援室、子どもと家庭の支援員、スクールソーシャルワーカーと連携し、迅速な対応・支援を行う。 ・QU結果を活用し、魅力ある学級づくり及び個別支援に生かしていく。 ・「人権教育だよりの活用」を効果的に活用し、学校全体で人権意識を高める。	・SNSは誰でも簡単に情報を収集したり発信したりできる便利な物だが、誤った情報や意図的に作られたデマも多量。人を傷つけてしまう危険性も伴うため、真偽の見極めが重要であることを指導してほしい。 ・学校教育目標にもある「強い意志」「思いやりの心」自己と他者互々の内面の成長を期待したい。また、スクールパディの今後の活動についてもどのような展開になるのか楽しみ。 ・生徒・先生・保護者の信頼性・相互理解が大切になると思う。 ・日々の取組が多様で、積極的に活動しており評価できる。結果として、いじめが減少していると思われる。 ・いじめ問題はなかなか困難なことが多い中、先生方がしっかり向き合い対応されているのが素晴らしいと思う。	
		・特別の教科 道徳の授業を要としたところの教育の充実 ・フラインク ルーシブ教育の実現 ・フラインク ルーシブ教育の実現に向けた人権教育の推進	・教科書によって計画的に行う「考え、議論する」特別の教科 道徳の授業の充実を図ることができたか。 ・道徳授業地区公開講座の活性化することができたか。 ・令和5・6年度国立市教育委員会研究奨励校 校内研究テーマ：『深く考える生徒の育成』～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を通して～ことができたか。 ・道徳科に特化した校内研修会を年4回実施（大学教授を招聘）することができたか。 ・全教員によるローテーション授業の実践することができたか。 ・生徒一人一人が自分らしくいられるために、通常級においても特別支援教育を推進し、思いやりの言葉が飛び交う雰囲気醸成することができたか。 ・人権教育推進委員会を組織し、担当教員が人権教育便りを毎月発行することができたか。	B	A	・道徳の授業では、今年度も全教員によるローテーション授業を実施した。 ・道徳授業地区公開講座を10月に実施した。道徳授業を公開し、講演会（講師：朝原宣治様）を行った。保護者へ道徳通信を配布し、本校の道徳教育について周知した。 ・道徳の年間講師からは、道徳授業の在り方や人権教育に関する講話をいただいた。 ・特別支援教育は、生徒一人ひとりの特性を大切にしながら、学級・学年・学校全体で推進し、互いを理解し尊重する雰囲気づくりに努めた。 ・人権教育だよりは毎月発行し、教員研修後に学級で共有することで、学校全体の人権意識を高めた。また、保護者にも人権について一緒に考えてもらえるように、保護者へのメッセージも入れて、すぐる配信した。	・道徳の授業では、講師の指導を踏まえ、「深く考える生徒の育成」と授業力の向上を目指す。 ・今年度の道徳授業地区公開講座もオンラインピアノ・パライピアンを講師としてお招きし、心の教育の充実を図っていきたい。 ・引き続き、生徒一人ひとりの特性を大切にしながら、互いを理解し尊重し合える雰囲気づくりに努める。 ・来年度も、人権教育だよりを3月まで毎月発行し、生徒も教員もお互いを大切にできる学校風土を学校全体で育んでいく。	・子どもが自分で物事を決める機会を見つけられるよう、様々な体験をしてほしい。 ・人権に対する捉え方が素晴らしいと感じる。現状の世相の問題点を的確に捉えている。 ・いろいろな人々の感じ方を聞いたり話し合うことで、さらに仲間との関わりを深めてほしい。社会へ羽ばたいていく子どもたちの教育の中で、とても大切な授業であると感じる。 ・人権教育だよりを毎月発行し、生徒だけでなく大人も学ぶことができる。とても大変だと思うが、是非続けてほしい。 ・道徳的なところも大人になると忘れてしまうが、子どもたちに伝え指導されていることで、子どもたちの心に根付くと思う。	

<p>・強い意志をもって実行できる人</p> <p>・思いやりの心をもって助け合う人</p>	<p>・自己実現に努める生徒</p> <p>・支え合う生徒</p>	<p>豊かな育む教育活動</p>	<p>・様々な、生徒の主体的な活動実施</p> <p>・部活動地域移行の実施（剣道部）</p> <p>・50周年記念式典の実施</p>	<p>・主体的な生徒会活動（あいさつ運動、いいことしようDAY、新入生説明会、生徒総会等）を継続することができたか。</p> <p>・スクール・パディ活動を充実することができたか。</p> <p>・定期考査前に自習室開放をすることができたか。</p> <p>・SNS三中ルールの継続と見直し、周知の工夫をすることができたか。</p> <p>・校則の見直しをすることができたか。</p> <p>・カジュアルウィークを実施することができたか。</p> <p>・地域学校協働活動推進委員との連携による三中カフェ（MYHA3RU：マイハル）を実施することができたか。</p> <p>・部活動地域移行の対象を剣道部として活動を進める。</p> <p>・50周年記念式典を通して、三中の歴史に触れ、愛校心を深めることができたか。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・生徒会主催「いいことしようDAY」では、あいさつ運動・桜掃き・石拾い・葉落ち葉掃きを行った。</p> <p>・スクールパディは定例会や新聞発行、パディラジ、学習総合発表会での発表を行った。</p> <p>・定期考査前に自習室を11日間開放し、合計289名が利用した。</p> <p>・SNS三中ルールはセーフティ教室や人権だより等で周知している。夏休みにはSNS家庭ルールの作成・見直しを宿題として出した。家庭ルール率は、96.7%であった。</p> <p>・生活委員会が中心となって、SNS三中ルールを見直した。</p> <p>・校則の見直しでは、校則検討委員会を設置し、今年度は4項目を見直した。</p> <p>・カジュアルウィークを毎学期（合計31日間）実施した。</p> <p>・三中カフェは、合計6日間開催し、453名が利用（12月末現在）した。文科省から「道徳アーカイブ」の撮影協力依頼を受けた。</p> <p>・部活動の地域移行は剣道部が対象となっており、昇段昇級審査の引率を依頼している。</p> <p>・50周年記念式典の第2部を生徒会が担当することで、生徒ならではの視点やアイデアが加わり、式典全体が「心に残</p>	<p>・「いいことしようDAY」は、今後も継続して実施する。</p> <p>・スクールパディでは、「東京都教育委員会作成 いじめ総合対策（子供版）」を活用して、いじめ問題やいじめ防止について企画・発信をし始めた。来年度も継続させる予定である。</p> <p>・自習室は、来年度も定期考査前に実施する予定である。</p> <p>・生活委員会が中心となって見直したSNS三中ルールの実施状況について、今後確認する。</p> <p>・新校則を見直し、今のところ問題はない。何かあれば迅速に検討する。</p> <p>・カジュアルウィークは、服装ルールを見直すこととした。来年度も実施する。</p> <p>・生徒会による三中カフェが始まった。振り返りや記録をしっかり行い、よりよい活動となっている。</p> <p>・50周年記念式典での経験を生かし、今後も、生徒の主体性・協働性・自己肯定感を育てていく。</p>	<p>・校則の見直しは、生徒会の役員が替わりと従来のものをメンテナンスする等、子どもたちが主体的に行動していると実感する。</p> <p>・50周年の式典は、在校生にとって思い出深いイベントになった。</p> <p>・50周年という目的に向かって、生徒さんたちの力が発揮されて良かったと思う。</p> <p>・三中カフェ新メンバーでのスタートや周年式典での生徒たちの主体性が見えたことを評価したい。</p> <p>・いろいろな活動を通して、子どもたちのやる気や積極性を感じた。準備や段取りに加えて、振り返りまでもしているところがとても素晴らしい。</p> <p>・スクールパディは声を掛け合いながら人数が増えた。意欲も感じられる。</p>
	<p>豊かな育む教育活動</p>	<p>学校行事への主体的な取り組み</p>	<p>・学校行事（体育祭、合唱コンクール、学習総合発表会）を充実させることができたか。</p> <p>・50周年記念式典を民間会社に委託することで、式典内容の質の向上を図るとともに、教職員の働き方改革にもつなげることができたか。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・6月の体育祭は、再延期により準備や気持ちの面での苦労もあったが、生徒と教員の力を発揮できる行事となった。9月の合唱コンクール（会場：たましんRISURUホール）においても、生徒たちが全力を発揮する行事となった。</p> <p>・50周年記念式典は計画通りに実施することができた。民間会社に委託したことで、記念誌や記念品、プロジェクトマップなど式典内容の質の向上を図るとともに、教員の働き方改革にもつなげることができた。</p>	<p>・体育祭、合唱コンクールともに充実させることができた。今後の学校生活に活かす。</p> <p>・50周年記念式典でのプロジェクトマップは、民間会社及び国立市の公式YouTubeで配信されている。プロジェクトマップ以外でも、式典に関する問い合わせが数件入っている。できるかぎりの情報提供をしていきたい。</p>	<p>・体育祭の再延期があったものの、見に来ている人数の多さや温かさに感動した。</p> <p>・合唱コンクールでは、毎年恒例の「歓喜の歌」は心に響く。学年が上がるにつれての上達が感じられ素晴らしい。</p> <p>・思いやりの心と真摯な態度が感じられる素晴らしい行事であった。</p> <p>・生徒たちが生き生きと行事に向かって意欲的に行動している姿が印象的だった。</p>	
<p>心身を鍛える人</p>	<p>豊かな人間性を育む活動</p> <p>自らを磨く生徒</p>	<p>キャリア教育の充実</p>	<p>・進路指導を充実させることができたか。</p> <p>・模擬面接（立川青年会議所等、地域人材活用）を実施することができたか。</p> <p>・地域学校協働活動推進委員との連携による職場体験学習の実施（2年）をすることができたか。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・3年生は、進路希望調査や説明会、卒業生のお話を聞く会、進路面談等を通じて進路指導を行った。全員の進路が決定した。</p> <p>・職場体験学習は、地域学校協働活動推進委員の調整により36の事業所にご協力いただき、3日間の職場体験学習を終え、「働くこと」を通して多くのことを学んだ。</p> <p>・2年生の上級学校訪問は7月に実施し、23校を訪問した。</p>	<p>・進路においては、入試相談や調査書作成に向けて、事務処理を確実に実行していく。また、一人ひとりに応じた進路指導を行っていく。</p> <p>・職場体験学習での学びを今後の学校生活やキャリア教育に活かしていく。</p> <p>・2年生の上級学校訪問で得た学びも、今後の進路指導に活かしていく。</p>	<p>・職場体験は、自己肯定感の醸成につながる。自身が望まない場所での体験も貴重な体験となる。</p> <p>・一人一人に応じた進路指導となり、充実させていると感じられた。</p>	
		<p>地域や外部協力者と連携した教育活動</p> <p>・コミュニティ・スクールを生かした教育活動</p>	<p>・セーフティ教室を開催することができたか。</p> <p>・スケアードストレート（スタントマンによる自転車安全教室）を実施することができたか。</p> <p>・租税教室、金融教育、戦争講話、救急法講習会（3年）を実施することができたか。</p> <p>・SDGsの取組（全学年、全教科）をすることができたか。</p> <p>・コミュニティ・スクールと連携し、学校運営の評価及び改善に取り組むことができたか。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・セーフティ教室では、講師としてe-ネットキャラバンの方にお越しいただき、携帯を使用するうえでの危険（ネット依存、いじめ、個人情報漏洩等）についてお話いただいた。</p> <p>・3年に1度の交通安全教室「スケアード・ストリート」を実施した。スタントマンが生徒たちの目の前で交通事故を再現し、事故を未然に防ぐための知識や、交通ルールを守ることの大切さを学ぶ貴重な機会となった。</p> <p>・租税教室は7月、薬物乱用防止教室・金融教育・戦争講話・救急法講習会は3月に3年生において実施した。</p> <p>・SDGsの取組を2学期から行っている。</p> <p>・コミュニティ・スクールの皆様のご意見を学校運営に活かしている。</p>	<p>・セーフティ教室での学びを活かし、SNS三中ルールを守りながら自ら考え正しい判断ができる力を育てていく。</p> <p>・自転車に乗る時のルールや交通事故等について、今後も安全指導をしていく。</p> <p>・租税教室、薬物乱用防止教室、金融教育、戦争講話、救急法講習会（3年）は、目的を明確にし、効果的に実施する。</p> <p>・SDGsの学びが、個人・全体の学びにつながるよう取り組む。</p> <p>・今後もコミュニティ・スクールと連携し、よりよい学校運営を目指す。</p>	<p>・社会や経済のことに若い頃から関心をもつためには、金融教育はとても重要だと思ふ。</p> <p>・地域や外部協力者と連携し、コミュニティスクールを生かし、よりよい学校運営につながるのと良いと思う。</p> <p>・地域との連携がとれている。外部協力者の皆様に感謝します。</p> <p>・SNS三中ルールは、子どもたちにも理解しやすく、守っていけるルールで、親子で話し合えることがとても良い事である。</p> <p>・SDGsの取組も素晴らしい。</p>	
		<p>体験的な学習の充実</p>	<p>・修学旅行（3年）を実施することができたか。</p> <p>・職場体験学習（2年）を実施することができたか。</p> <p>・校外学習（1年、2年）を実施することができたか。</p> <p>・自然体験教室（1年スキー教室）を実施することができたか。</p> <p>・合同宿泊学習（A組）を実施することができたか。</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>・2年生は、10月に3日間、36の事業所において職場体験学習を実施した。生徒たちは、挨拶や言葉遣いに気を付け、身だしなみを整え、緊張感をもって取り組んでいた。1月に鎌倉方面で班行動による校外学習を実施し、仲間同士で助け合い、思いやりをもって行動する姿が随所に見られた。</p> <p>・1年生は、10月に体験型英語学習施設「TGG」へ校外学習を実施し、1月に新潟県湯沢の岩原スキー場でスキー教室を実施した。「時間を守る」「話を聞く」「挨拶をする」の3つの目標を意識し、一人一人が学年の一人として自覚をもって行動する姿が見られた。</p> <p>・A組は、11月に長野県諏訪湖方面で一中との合同宿泊学習を実施し、計画的に考えて行動する姿が見られた。</p>	<p>・「活動あって学ぶなし」とならないように、学習のねらい、過程、振り返り等、活動の意義を明示し、理解させた上で指導を継続する。</p>	<p>・一人一人責任をもって取り組んでほしい。体験が今後役に立つと良いと思う。</p> <p>・校外で学習することにより、計画を立てながら時間を大切に使う、協力し合う、集団行動を意識した学びができたと思う。</p> <p>・集団での活動体験は、社会に出ていく上で、大切な体験です。いろいろな友達とのコミュニケーションをとることができて良いと思う。</p>	
		<p>学校2020レガシーの構築</p>	<p>・オリンピック、パラリンピックによる講演会を実施することができたか。</p> <p>・車いすバスケットボール体験（1年）を実施することができたか。</p> <p>・英語体験（TGG）（1年）を実施することができたか。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>・オリンピック（講師：朝原宣治様）による講演会を行った。</p> <p>・7月に車いすバスケットボール体験を実施した。</p> <p>・1年生は校外学習として10月に体験型英語学習施設「TGG」をし、英語をもっと上手に話したいという意欲を高めた。</p>	<p>・次年度もオリンピック・パラリンピックによる講演会を計画する。事前学習で生徒の意識をより高めさせた上で講演会につなげていく。</p> <p>・車いすバスケットボール体験に向けて、事前学習をよりよいものにする。</p> <p>・1年生のTGGでの体験を、スピーキング力の向上につなげていきたい。</p>	<p>・オリパラ教育の講師の方々の話は、子どもたちにとって意義深いものと感じる。</p> <p>・体験と経験、点と点が今後、線になっていくことを期待できる取組だと思ふ。</p> <p>・体験をして充実するためには、事前学習に力を入れることが大切になると思ふ。</p>	

達成状況の指標 A: 100%~80% B 80%~50% C 50%~0%